

事務所長からのメッセージ

- 12月14日に発表しました[金融経済概況\(道北地区\)\(12月\)](#)では、道北地域の景気の基調的な判断を、前月までの「横ばい圏内の動きとなっている」から「やや弱めの動きとなっている」に下方修正しました。私どもが当地域の景気の現状を「横ばい圏内の動きとなっている」と判断し、公表しましたのが本年10月1日ですので、2ヵ月半振りの下方修正ということになります。
- 全国的にみると、わが国の景気は緩やかな拡大が続いており、つれて当地域でも、本年夏頃までは、厳しい状況下ではありましたが、「緩やかな持ち直しの動き」が確認されてきました。しかし、その後、少しずつ変調が窺われ始めました。それまで、地域の「緩やかな持ち直し」を牽引していた製造業の道外向け出荷が伸び悩んできました。また、観光面でも、引続き活況を呈している部分はありますが、地域全体でみると、高水準だった前年を上回る状況ではなくなってきました。
- こうした状況の下、本年10月1日に公表しました[企業短期経済観測調査\(道北地区\)\(9月調査\)](#)では、企業の業況感が「幾分慎重化」し、同12月14日に公表しました[企業短期経済観測調査\(道北地区\)\(12月調査\)](#)では、非製造業を中心に、「悪化」していることが確認されました。
- 今回の下方修正は、各需要項目の動きに加え、こうした企業マインドの変化も参考に判断しました。ただ、前月もこのコラムで申し上げましたが、19年度の設備投資額を当初計画比増額させる動き、に注目しています。今回の12月短観では、さらなる増額の結果、前年度を上回る計画であることが明らかになりました。厳しい経済情勢の下にあっても、将来に向けた投資には前向きに取り組んでいこうという当地経営者の意識の表れと捉えています。
- 今こそ、創意工夫を凝らし、将来の飛躍に向けたエネルギーをためていく時ということだと思います。また、当地の素晴らしい魅力を道外(外国を含む)に向けて再発信していく時でもあると思います。「なまら^(注) いいべさ 北海道!」。
- 旭川をはじめとした道北地域は、かなりの積雪となってきました(左下の写真をご覧ください)。経済やその血液であるお金のめぐりが悪くならないように、私たち一人ひとりの心の中から、引続き情熱を持って、温めてまいりましょう。

平成19年12月14日

尾家 啓之

(注) 北海道の方言で「とても」という意味。